1面から

現状と問題点

しかし、厚生労働省が考える「医療連携」や「大病院と診療所の機能分化」と、実際の医療の現場ではギャップがあると、順天堂大学医学部附属浦安病院地域医療連携室の木所昭夫室長は言う。

「当院は、本来ならば専門性の高い診療を必要とする方や、重篤な疾患で設備が整っている医療機関での診療を必要とする患者さまを対象とすべきだと思います。しかし、診療先を選ぶのは患者さまご自身、風邪などでも当院で診てもらいたいと考え、当院を『かかりつけ医』と考えている方が多いのも事実です」

「初診料がかかっても大学病院で診療してもらいたい」「開業医の先生に診療してもらったけれど、大きい病院で診てもらわなければ心配」という患者の"大病院志向"は根強い。その結果、「何時間も待った挙句に5分診療」となるが、不満を言いながらもまた通う人は少なくない。

「病気の症状や考え方などは人それぞれなので、開業医の医師にどこまで任せて、当院ではどこから診るかという線引きが難しいのも事実。制度を作っても現実的ではないのです」

地域医療連携パスの取り組み

厚生労働省の掲げる理想と現実にはギャップがあることを認めつつも、同院では、地域の診療所と連携し、それぞれの役割に応じた質の高い医療の提供を目指している。がん、心筋梗塞、糖尿病、脳卒中などの疾患に対し、同院を核に、地域の診療所に枝葉の役割を担ってもらうという協力体制を模索中だ。

「当院と地域の開業医を行き来しながら治療をしてもらうことで、患者さまにデメリットがあったときには細かく診られるような体制を推奨しようと努力しているところです。今後は、開業医の先生方がCTやMRIなどの画像診断を必要とする場合、当院の設備を提供できることもPRしていきたいと考えています」

ドクターを友だちに持ちましょう

インターネットなどで医師の略歴や専門医の資格を見ても、実際の医師の実力は患者にはわからない。それではどうやって「かかりつけ医」を見つければよいのか。

「気軽に相談できるお医者さんを友だちに持つこと。縦の関係ではなく、横の関係で何でも言い合える。それでいて、馴れ合いではなく、適度に緊張感を保っている関係がベストです。気になる症状を気軽にかかりつけ医に相談できれば、もしも専門とは遠う疾患であっても、『ここに行ってください』とアドバイスがもらえ、早期発見、早期治療につながります」

"大病院志向"にとらわれず、本当に心を開ける医師こそを「かかりつけ医」に持ちたいものだ。

地域医療を充実させるために

3月12日（月）から仮病棟で診療を行っていた科目を新病棟へ移したのを皮切りに、4月からは新科目の診療も随時始まった東京ベイ・浦安市川医療センター。

事務部長の亀谷展丈さんに、同センターが地域で担う役割について話を聞いた。

今年12月には癒しスペースともなる公園も完成する

二次医療機関としての役割

医療は症状によって3段階に分けられる。風邪や腹痛、腰痛など日常的な疾病を対象にするのが、一次医療。二次医療は、入院治療を主体とした比較的専門性の高い医療。そして「三次医療」が、緊急入院によって治療が必要となる特殊で専門的な医療のことだ。

同センターは、このなかの二次医療を担うことになる。「当センターは千葉県から二次医療機関として認定されていますから、基本的には、入院治療が必要な患者さまや、一次医療で精密検査が必要だと診断された方がいらっしゃる病院という位置付けです」

とはいえ、産科に関しては、このケースから外れるという。

「出産は産科ですが、赤ちゃんが生まれれば担当は小児科。新生児の場合、状態によってはすぐに高度な医療が必要な場合もありますから」

ただし、同センターで出産に対応できるのは今年10月以降なので、予定日が10月以降の妊婦さんでなければ対応は難しいのが現状だ。

地域医療のためにすべきこと

地域の医療を充実させるためには、医療機関の役割分担が大切だと亀谷さんはいう。「本来、一次医療に行くべき患者さまが二次医療に殺到してしまい、本当に専門性の高い治療が必要な患者さまを診る医師が不足してしまっては、本末転倒です。地域住民が一次医療と二次医療の違いを理解し、使い分けることで、地域医療がより良いものになるんです」

そのためケースによっては「逆紹介」、つまり同センターで受けるべき治療が終了したら、その後のケアは二次医療である「かかりつけ医」に引き継ぐこともあるという。さらに同センターでは、患者のことを最もよく知っている地元の開業医との連携もスタートさせた。

「開放型病床というシステムで、開業医の先生と当センターの医師が情報を共有し、共同で診療にあたるというものです。場合によっては手術や検査に立ち会うことも可能。患者さまにとっては、かかりつけ医が一緒にいることは、何よりも心強いことだと思います」

癒しのある医療施設

「実は、当センターの最大の魅力は12月完成予定の公園なんです」と、亀谷さん。都市部にありながら緑あふれる病院は、ほかではなかなか見られない。入院患者はもちろん、通院してくる患者にとっても、身近な緑は心の癒しになりそうだ。

さらに、病院とは思えないものが…。「当センターのキャラクターである『あおいくま』をあしらったオリジナルグッズを、売店で販売しています。ボールペンやクリアファイル、キーホルダー、ぬいぐるみなどをぜひ、ありますので、治療やお見舞いの合間にほっとしていただければ」

『あおいくま』グッズは病院の売店で購入できる

市民病院から生まれ変わり、新たな役割を持ってスタートした東京ベイ・浦安市川医療センター。医師90人、看護師160人という体制でまずはスタートを切り、地域の健康を守っていく。

そして、いざというときに満足いく治療を受けられるように、患者側も医療機関を使い分けていく必要があるようだ。

「かかりつけ薬局」を持つことの安心

「かかりつけ医」はコーヒーと決めてはいても、「かかりつけの薬局」まで決めている、という人は少ないのではないだろうか。

そこで今回は、かかりつけ薬局を持つことのメリットについてアオノ薬局グループの薬剤師、牧野泰幸さんに聞いた。

◇

かかりつけ薬局を持つことで、複数の病院にかかっていろいろな薬が処方されても、自身の薬の管理・チェックができるようになります。これにより、異なった医療機関から同じ効き目の薬や飲み合わせが悪い薬が処方された場合でも、薬局から病院に連絡して処方の確認ができ、薬の重複や相互作用による副作用を未然に防ぐことができるのです。また、患者さんの薬歴管理をさせていただくことで、アレルギー体質の方やご高齢の方への薬の確認がスムーズにできます。

薬局では市販薬・サプリメントとの飲み合わせの確認など、薬についての説明が受けられます。また、私たち薬剤師は処方せんに従っての調剤薬務以外にも、「セルフメディケーション」のお手伝いもしています。病気予防のアドバイスからOTC医薬品（市販薬）についての情報提供、治療が必要と判断した場合には、ご要望に応じて専門医の紹介をさせていただいております。さまざまなことでもお気軽にご相談ください。

◇

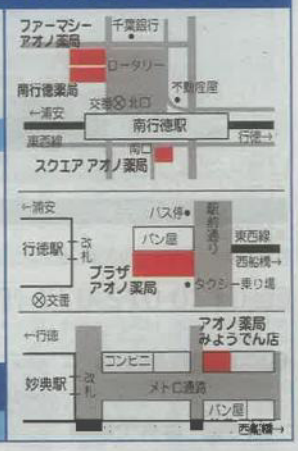
薬の副作用が出てしまうかどうかを自分で判断するのは難しいし、何よりも自己判断は禁物だ。

地域医療の窓口として、健康や薬のことを気軽に相談できるのが「かかりつけ薬局・薬剤師を持ち、安心して治療を進めましょう。

東京ベイ・浦安市川医療センター
TOKYO BAY MEDICAL CENTER
2012年4月より、順次機能拡張

診療科目
●総合内科　●外科　●小児科　●整形外科
●循環器科　●脳神経外科　●小児外科　●救急科
●皮膚科　●眼科　●産婦人科　●泌尿器科
●耳鼻咽喉科　●呼吸器科　●腎臓内科　●リハビリテーション科
●放射線科　●麻酔科

千葉県浦安市当代島3-4-32　TEL 047-351-3101
東京メトロ東西線 浦安駅下車徒歩6分　京成バス「東京ベイ医療センター」前
http://www.tokyobay-mc.jp/
看護師・助産師募集！
詳しくはお問い合わせください。

日本全国の処方箋受付　～選ばれるかかりつけ薬局を目指しています～
街の救急箱 Aono アオノ グループ
薬　漢方薬　化粧品　健康食品

お薬のことはお気軽にご相談ください
ファーマシーアオノ薬局　南行徳駅北口　☎356-5346
南行徳薬局　南行徳駅北口　☎356-4193
スクエアアオノ薬局　南行徳駅南口　☎396-4193
プラザアオノ薬局　行徳駅改札口前　☎395-5462
アオノ薬局みょうでん店　妙典駅M'av内　☎399-4193
スクエアAono クスリ宅配便　☎047-396-4193
アオノ薬局　検索　http://www.aono-pharm.co.jp